
seven starlight planets *+

蒼空 *

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

seven starlight planets * +

【Nコード】

N0816Q

【作者名】

蒼空 *

【あらすじ】

1000年前の偉大な占い師が出した序言。嘘か本当なのかは誰も分からなくて信じる者と信じない者で分かれた。信じない者は占い師を疑い、占い師を殺害した。占い師が死んでしまい悲しく思った信じる者はこの序言を石板にしるし残し占い師の亡骸とともに埋められた。しかし、2010年にこの序言は当たることになる。天川高校の時雨蒼空 しぐれそらはこの自分がこの運命の流れに巻き込まれてしまう。大切なものを失くし大切なものを連れ去られ大切な場所もなくしてしまった。一体、彼女はこの逆

られない運命にどう向かっていくのだろうか？

+ * z e r o . 0 * +

古い古い言い伝え…

1000年前の占い師が残した序言

遙かな時を越え、いま再び闇が甦る時

七色の玉の封印破られ

時は乱れ、時空の扉が開き

7つの世界への道ができるであらう――

まさか、この序言が2010年のこの世に起こるなんて
私は思っても見なかった。

少しずつ失くしていく
大切なモノ。

私はどうしたらいいのだろう…

今、時を越え想いが交差する…

プロローグ

？俺らはいつまでたつても親友であり、良き戦友だ！”

？当たり前じゃないか！約束だからな！！”

？おう。約束だ。”

この世界は魔法と科学で満ちあふれて平和だった。…なのに。

あの日まで俺たちは幸せだったんだ。

あれを見つけてしまうまでは…。

あの約束から3年後、世界は闇で覆われ
花は枯れ、光のない世界になってしまった。

そこには人影があり、また一人、また一人と倒れていく

そして、人影も最後の一人になってしまっていた。

カキン…ガン……ボコツ…カキン…
剣がまじりあう音が響く。

「これで最後だ！」

キン

相手の剣が飛び、遠い場所に突き刺さる。

「これでお前は戦えない。あきらめるんだな。」

「クソッ……」

剣を失くした奴は膝をつき拳を握って悔しがった。

「これでもう世界は俺のものだ。ハハハハ……」

「もう、やめろよ。このままじゃ世界が…世界が滅びてしまうんだよ。」

「うるせえ！お前は黙ってろ……」

「……お前は本当にかわってしまったんだな」ボソッ

俺はあいつの顔を見上げてつぶやいた。

本当にあの頃のあいつはいなくなっと思ったと思い知らされた。

「これさえあれば、もう俺に逆らえるものは誰もいない。」

「いや、俺はお前を許さない！できればお前に使いたくなかったんだが…これが最後の最後だ！」

俺は拳を握り、その手を前にかざした。

「我、契約のもと汝の悪しきものを滅する者なり。わが名は誠実の蒼 セイ なり。」

今、幸福の赤 セキ、冷静の白 ハク、希望の黄 オウ、友

情の碧 リヨク

力の紫 シキ、そして誠実の蒼 セイ より7つの願い玉よ。

この者をもう二度とこの世界に来られぬように封印せよ。虹色封印
？エターナルクリスタル”！！”

すると先ほどまで倒れていた人たちの体がふわりと立ち上がり
それぞれが赤、白、黄、緑、紫に光だし体から玉が光りながらでて
きた。

それと同時に呪文を唱えた奴の体から青の玉が光を放ちながら出て
くる。

やがて6つの光と同時にあいつが持っていたモノが黒く光りだした。
合わせて7つの光があいつを包み込む。

「！！！！何をする！俺はまだやることがある・・・のに・・・クソッ…
覚え・・・お・・・けー！！。」

光が奴を包みこむと弾けてしまった。

「さようなら……俺も……もうだ……めだ……な……。この世界は……どう
……なるん……だろ……う。」

俺はその場に倒れこみ、意識を失った。

俺が倒れた後は、この世界が救われたのか……
滅びてしまったのか……分からない。

#01 いつもの朝

ジリリリリリ・・・

「ん？もう朝か…。朝練いけないとな！！」

今の時刻は5時半。そんな朝早くから朝練へ行くための準備をする
すると下から…

「奏！！！早くしなさい！！朔夜君が来ちゃうでしょー！！」

「はぁーいー！！」

そう、この子が時雨奏　じぐれかなで、17歳、高校2年
性格は男の子っぽくサバサバしている女の子である。

剣道部で副部長をしていて、実力は全国の女子の部で1位の實力を
持っている。

運動神経抜群、容姿端麗である。けれど、勉強面だけが残念なところである。

「あぁーもう！ご飯食べてる時間ないー！！朔夜来るよー！」

「だから早く呼んだのに！知らない。」

すると？ピンポン”とインタホンがなり、母が玄関のほうに向かう。

まだ、私は朝ごはんを食べていた。

けど、ゆっくり食べている暇もなく玄関のほうから

「奏！早くしなさい！！朔夜君が待っててくれるわよー」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0816q/>

seven starlight planets *+

2011年1月16日01時54分発行